

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

埼玉県 朝霞市

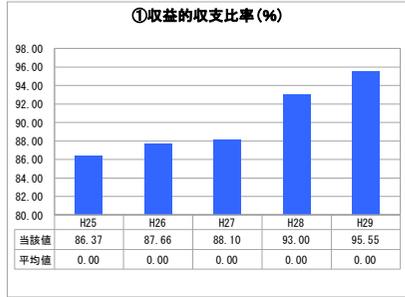
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	97.58	80.70	1,134

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
138,442	18.34	7,548.64
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
135,362	10.85	12,475.76

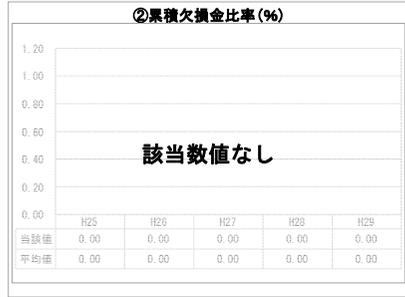
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 平成29年度全国平均

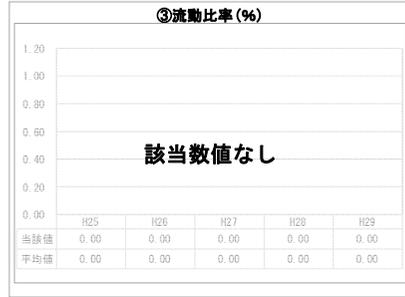
## 1. 経営の健全性・効率性



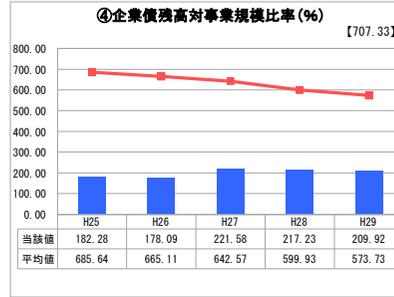
「単年度の収支」



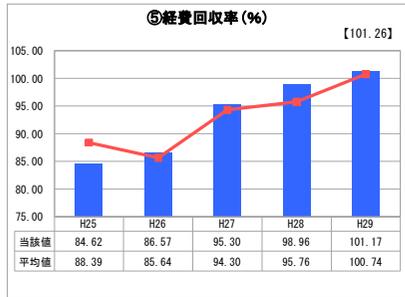
「累積欠損」



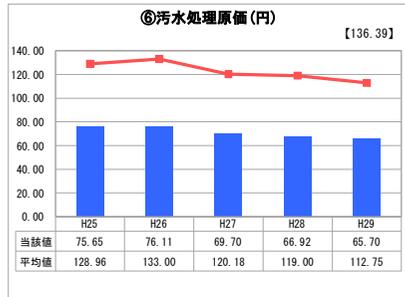
「支払能力」



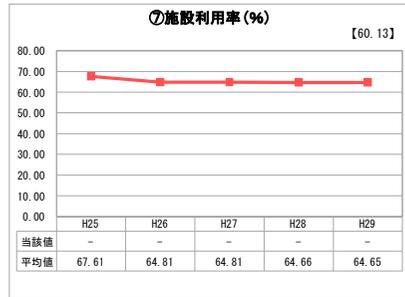
「債務残高」



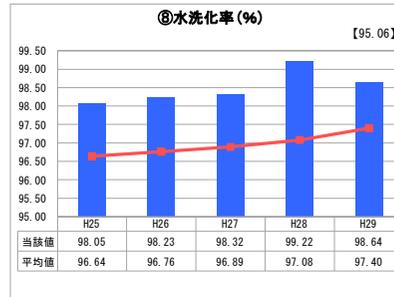
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

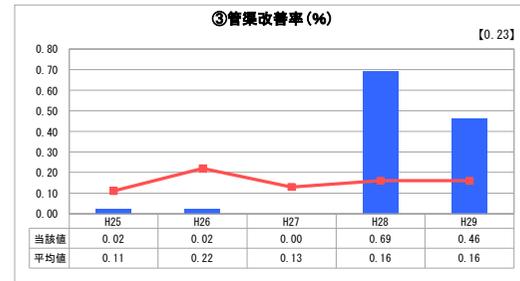
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率  
本市の下水道事業会計は、料金収入のみで事業会計を随うことができず、一般会計からの繰入れ及び下水道事業債で補っており、収益的収支比率は100%未満であり、経営の効率化が求められています。

料金収入の増加のほか、企業債の償還額の減少により、収益的収支比率は改善傾向にあります。

④企業債残高対事業規模比率  
事業費に占める企業債残高の比率については、平成27年度に大規模な幹線整備を行ったことから一時的に上昇したものの、翌年度からは再び減少に転じ、平成29年度も減少となりました。

⑤経費回収率・⑥汚水処理原価  
下水道事業債の償還が進み、汚水処理費用内の償還額が占める割合が低下しており、結果として経費回収率及び汚水処理原価については改善傾向にあります。

⑧水洗化率  
同規模の他の自治体に比べて水洗化率が高い水準にありますが、未接続世帯の減少を図るため、今後も継続的に啓発活動を行います。

### 2. 老朽化の状況について

本市の下水道は供用開始から既に35年が経過し、下水道施設の老朽化が進んでいます。下水道施設の計画的な改修・更新を行っていくため、平成29年度からストックマネジメント事業に取り組んでおり、今後も計画に基づいた、適切な施設の維持管理を行っていきます。

### 全体総括

人口は増加傾向にあるものの、近年の節水意識の高まりから、料金収入の伸び悩みが見られ、また、施設・設備の老朽化に伴う更新投資の増大など、経営環境は厳しさを増しています。そのため、経営基盤の強化・財政・マネジメントの向上等にさらに的確に取り組むため、平成29年度から、公営企業会計法への移行作業を進めています。なお、公営企業会計法の適用は、平成32年4月1日からの予定です。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。